

石川賀係女郎の歌一首

一六一二番

神さぶとかむ 否いなにはあらず 秋草あきくさの 結むすびし紐ひもを
解とくは悲かなしも

賀茂女王の歌一首

一六一三番

秋あきの野のを 朝あさ行く鹿しかの 跡あともなく 思おもひし君きみに
逢あへる今夜こよひか

遠江守桜井王、天皇に奉る歌一首

一六一四番

九月ながつきの その初雁はつかりの 使つかひにも 思おもふ心こころは 聞きこ
え来こぬかも

天皇の報和へ賜ふ御歌一首

一六一五番

大おほの浦うらの その長浜ながはまに 寄よする波なみ ゆたけき君きみを
思おもふこのころ